

5年	単元名	伝えられてきた文化「古典芸能」～語りで伝える～	3時間
単元の目標		<p>○古典について解説した文章を読んだり、動画に触れることにより、「落語とはどんなものか」や「日本には言葉だけで物語を伝える芸能がある」等を知ることができる。</p> <p>○教科書、動画で触れた落語を、自分たちで実際に体験することで、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。</p>	
日本語の目標		<p>○せんすや手ぬぐいを使って実際に落語を行うことで「しぐさ」「見立てる」「演じ分ける」「声の調子、顔の表情・向き、体の動き」等のことばを学び、落語での動作や感情表現等を通して昔の人の物の見方や感じ方を理解することができる。</p> <p>○「せんす」「手ぬぐい」「ざぶとん」「正座」等の落語に関わるものの名前がわかる。</p>	
学習課題		教科書や動画から日本の古典芸能「落語」を知り、自分で落語を実際に体験することで、昔の人のものの見方や感じ方を知る。	
主な学習活動		<ul style="list-style-type: none"> 教科書本文から問題を出し合うことで、その内容をつかみ、落語の「しぐさ」について話し合う。 小噺集を通して、話の内容から登場人物の物の見方や考え方を話し合う。 実際に落語を経験する。 	

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1	学習課題をつかむ 本文を読み、内容を理解する。	<p>めあて 「古典芸能の世界」の内容をつかもう</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書本文を音読する。 教科書本文の内容(P154)をもとに、内容に関しての問題を出しあったり、答えを話し合ったりする。 教科書P155の「落語のしぐさ」から、問題を出しあったり、答えを話し合ったりする。 活動の中で、落語の芸(登場人物を一人で演じ分ける)、小道具等をいろいろなものに「見立て」表現する、「落ち」でしめくくり笑いをさそう、等の内容を理解する。 教科書にあるしぐさをもとに、新しいしぐさを考え、交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教科書を読んでくる」「関連動画を視聴してくる」を前時に家庭学習として出す。 P154の「しぐさ」を實際行う事で、落語の表現を体感し、理解する。 「見立てる」「顔の表情や向き」「手や体の動き」等の言葉を活動の中で理解できるようにする。 新しいしぐさを考えることで、表現の幅を広げる。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> やさしい日本語での落語動画を視聴してくる。 	
2	小噺を理解し、体験する。	<p>めあて 落語・小噺をやってみよう!</p> <ul style="list-style-type: none"> 小噺集の中の話の内容を読み取る。 話の内容について、考えを出し合う。 どこ? いつ? だれ? どんな性格 次時に行う落語・小話発表会の内容を知る。 落語・小噺を行うときの動きを知る。 <ul style="list-style-type: none"> 正座をして話す。 お辞儀をする。 せんす、手ぬぐいの使い方を練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容を考えることで、それを通して何を伝えたいか、どんなことを相手に感じさせたいかを具体的に考え話し合う。 落語を行うときの動きを知ること、次時への意欲にもつなげる。
	家庭学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 「古典芸能の世界」プリント 自分の発表する小噺を練習してくる。 	学習した「しぐさ」「見立てる」「顔の表情・向き」「手や体の動き」を意識して練習するよう伝える。
3	小噺発表会を行う 学習を振り返る	<p>めあて 落語家になりきって、小噺を発表しよう!</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習したことを思い出し、落語家になりきって発表する。 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 「落語とはどんなものか」や「日本には言葉だけで物語を伝える芸能がある」等を知ることができたか。 学習を通して昔の人のものの見方や感じ方を知ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 着物など衣装の持参も可能とする。 学習した「しぐさ」「見立てる」「顔の表情・向き」「手や体の動き」を意識して発表させる。